

# 患話休題

かんわきゅうたい

70



院長  
真崎 雅和



## ウィズ・コロナの時代

新型コロナウイルス感染が拡大する中、多くの方が日常生活を制限され、不安を感じていることと思います。新型コロナウイルスとの共存を受け入れる「ウィズ・コロナの時代」「新しい生活様式」という言葉も生まれました。

ウィズ・コロナといわれているように、このウイルスを完全に制圧することはおそらく不可能でしょう。現在の対処方針は、感染の急激な拡大による医療提供体制の破綻を防ぎ、なおかつ社会経済活動を復旧、維持させることとなっています。アクセルとブレーキの微調整に例えられますが、その落としどころは経済、医療の専門家の間でも意見が分かれるところです。

感染症の収束には、集団免疫の獲得が必要という考え方があります。多くの人が免疫を獲得した状態になれば、免疫を持たない人に感染が及びにくくなり、感染症が収束するという考え方は、新型コロナウイルス収束のためには、人口の60〜70%の人が免疫を獲得する必要があると考えられています。ワクチンが無く現状では、実際に感染することしか免疫獲得の機会はありません。海外では、あえて厳しい制限をせず集団免疫の獲得を目指した国もありますが、人口当たりの死亡者数は日本の60〜70倍になっています。医療提供体制を維持する上でも、集団免疫の獲得を一気に目指すことは現実的ではないでしょう。ま

た社会経済活動のブレーキを踏まないためにも、感染者数の増加を緩やかにする必要があります。

感染の拡大状況を評価する指標の一つに、1人の感染者から直接感染する人数があります。この人数を1人以下で維持することができれば、感染者数は減少すると考えられています。3月頃には2〜3人でしたが、緊急事態宣言下での自粛で0.5人まで減少しました。解除後の7月では1.3〜1.8人で推移し、お盆の頃で0.8人でした。この結果より、何も対策をしない状態では2〜3人のペースで感染が広がりますが、対策をすることで1人以下にすることが可能であると考えられます。

現在、ウイルスの飛沫を直接吸い込むこと（飛沫感染）、ウイルスが付着した手で口や鼻の粘膜を触ること（接触感染）での感染、さらに無症状の感染者の存在や発症前に既に感染力を持ったウイルスであることなどが分かっています。飛沫を減らすためのマスク、咳エチケット、接触感染を避けるための小まめな手洗い、共有物の消毒を心掛けてください。つまり、一人一人が状況に応じた感染対策に努めることに尽きるのではないのでしょうか。



診察時間が近づいたことをお知らせする

**メールサービス**  
約30分前

ご利用ください。  
ご希望の方はメルアドを受付へ!!



急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診

**真崎耳鼻咽喉科医院**

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321  
秋田市土崎港中央6-8-3